

編集後記

今号は、研究紹介記事が2件とやや少なめですが、厚めの内容です。

今や高分解能の光電子分光は物性研の十八番の1つですが、とうとうスピン分解の時間分解まで来ました。最後のグラフを見て頂ければわかりますが、やはりスピンの時間分解となると強度を稼ぐのが大変のようです。文中にもあるように、スピントロニクスやペロブスカイト太陽電池への研究展開も期待される場所です。

2件目は、最近物性研では常連(?)になってきましたが、今回は、ロドプシンでの新たなイオン選択性の発見に関するものです。昨秋、「学際領域展開ハブ形成プログラム」が採択されました。この事業では、従来と異なる研究機関・研究者コミュニティと連携することを目的としています。2016年に分野横断の研究グループを2つ設置し、そのうち機能物性研究グループでは、新たな領域として生体分子研究を取り入れて推進してきました。今回、その先駆的な活動が功を奏したカタチとなりました。今号の研究紹介では、構造解析と計算科学や電気生理学実験からの成果になっていますが、このハブ形成プログラムによって、物性研の十八番の電子状態観測から新たな発見に繋がることを期待したいところです。

物性若手夏の学校の記事では、コロナ禍を経て久しぶりの現地開催で、集合写真を見るとパワーを感じますね。

鈴木博之

物性研だよりの購読について

物性研だより発行のメール連絡を希望される方は共同利用係まで連絡願います。

また、物性研だよりの送付について下記の変更がある場合は、お手数ですが共同利用係まで連絡願います。

記

1. 送付先住所変更（勤務先⇔自宅等）
2. 所属・職名変更
3. 氏名修正（誤字脱字等）
4. 配信停止
5. 送付冊数変更（機関送付分）
6. メール配信への変更

変更連絡先：東京大学物性研究所共同利用係

〒277-8581 柏市柏の葉 5-1-5

メール：issp-kyodo@issp.u-tokyo.ac.jp